

施策評価シート《マネジメントシート》

施策名	青少年の育成			
施策の体系	基本目標	ひとを育むまち	施策の主担当課名	生涯学習課
	基本施策	心とからだ育成プロジェクト	関係課名	—
	施策コード	B-4-3	シート作成者名	有松 正一

① 施策の現状と課題	<p>青少年期は、人間形成における最も重要な時期であり、社会の一員としての生活の基礎を確立し、社会に貢献するとともに、能力や適性などに応じて活躍の場を広げていく時期です。</p> <p>しかし近年、核家族化・少子高齢化の進行、物質的な豊かさなど、青少年を取り巻く環境がめまぐるしく変化する中で、青少年の非行や青少年の関わる犯罪などの様々な問題が深刻さを増してきています。</p> <p>このため、有害な環境の浄化など青少年の健全育成のための環境づくりを進めるとともに、体験学習の機会の拡充など青少年の社会参加促進に向けた取組みが欠かせません。</p> <p>現在、本市では、地域・学校・警察などで構成する「行橋市青少年育成市民会議」を中心に、年間を通して行橋駅周辺での声かけ活動やゲームセンターでの夜間パトロールなどを行っています。また、学校外活動の推進として校区公民館での子ども講座や地域アンビシャス広場を開催しています。</p> <p>今後は、地域、学校、家庭はもとより警察などの関係機関・団体と連携を強化して、社会全体で青少年の健全育成及び非行・犯罪の防止に努めるとともに、青少年の問題行動への適切な指導に加え、立ち直りを推進する支援活動を行う必要があります。また、青少年が自ら進んで参加し、充実感や達成感を味わえるような自然体験、ボランティア活動などを推進し、社会との関わりから自己の確立が図れるよう、地域社会との交流の場の提供を図る必要があります。</p>
② 施策の基本方針	<p>青少年の健全な育成に向けて、関係団体との連携を深めるとともに、地域全体での非行防止や安全確保に努めます。青少年が社会で生きる力と創造力を身につけながら健やかに成長し、地域と共生しながら自己の確立が図れる環境づくりを推進します。</p>

③ 施策の内容 (主要施策)	<p><b>主要施策名(1) 健全育成活動の推進</b></p> <p>青少年の非行や問題行動を未然に防ぐため、家庭・学校・地域・関係機関などと連携した有害環境の浄化活動や街頭補導活動、立ち直り支援活動を強化するとともに、いじめや不登校など、様々な不安や悩みに適切に対処した相談体制の充実に努めます。</p> <p>また、地域での青少年育成機能の強化のため、「行橋市青少年育成市民会議」や「行橋市子ども会育成連合会」等の各種団体を支援し、次代を担うリーダーの育成を図ります。</p>
	<p><b>主要施策名(2) 健全育成のための環境づくり</b></p> <p>校区公民館において様々なテーマを掲げた子ども講座等を開催し、地域人材を活用した放課後及び休日における児童の安全な交流活動の場の提供と支援を図ります。</p> <p>地域におけるボランティア活動、世代間交流、社会体験など、青少年が主体的に携わることができる活動への参加を推進します。</p>
	<p><b>主要施策名(3)</b></p>
	<p><b>主要施策名(4)</b></p>
	<p><b>主要施策名(5)</b></p>
	<p><b>主要施策名(6)</b></p>

④ 目標指標	<p><b>指標名(単位)</b></p> <p>「青少年の非行・被害防止全国強調月間」推進大会参加人数(人)</p>	<p><b>過年度実績</b></p> <p>H22年度 H23年度</p> <p>357 357</p>	<p><b>評価年度</b></p> <p>H24年度</p> <p>376</p>	<p><b>目標値</b></p> <p>H25年度 H26年度 H27年度 H28年度</p> <p>390 430</p>				<p><b>達成度の説明 (H24年度)</b></p> <p>組織構成団体へ参加連絡を周知徹底できたため</p>
	<p>行橋市インリーダー研修参加者数(人)</p>	<p>H22年度 H23年度</p> <p>22 49</p>	<p>H24年度</p> <p>15</p>	<p>H25年度</p> <p>40</p>	<p>H26年度 H27年度 H28年度</p> <p>24年度は春季開催時、インフルエンザ・ノロウィルスの流行により参加者が激減した</p>			
	<p>校区公民館子ども講座参加延人数(人)</p>	<p>H22年度 H23年度</p> <p>2,053 2,189</p>	<p>H24年度</p> <p>2,803</p>	<p>H25年度</p> <p>2,900</p>	<p>H26年度 H27年度 H28年度</p> <p>児童に好まれる工作や昔遊びなどの体験型講座を充実させたため。目標値を2500人→2900人へ変更</p>			
	<p>「少年の船」参加人数(人)</p>	<p>H22年度 H23年度</p> <p>50 53</p>	<p>H24年度</p> <p>34</p>	<p>H25年度</p> <p>50</p>	<p>H26年度 H27年度 H28年度</p> <p>参加費の引き上げや事業のマンネリ化が影響しているものと思われる。交通手段や旅行日程等の見直しを検討</p>			
	<p></p>	<p>H22年度 H23年度</p>	<p>H24年度</p>	<p>H25年度</p>	<p>H26年度 H27年度 H28年度</p>			

⑤ 施策構成 事務事業	事務事業名		事務事業の内容			事業費(人件費込、単位:千円)			優先順位
						H23年度実績値	H24年度実績値	H25年度見込額	
	1	行橋少年の船実行委員会補助事業	沖縄での平和学習、船内研修等を通じ、団体生活や規律を学ぶ派遣事業			3,738	4,010	4,010	3
	2	研修センター管理事業	指定管理による市施設の運営管理に係る事業			22,059	23,090	26,469	6
	3	成人式開催事業	新成人を祝う式典、アトラクションの企画、準備、開催			2,676	2,664	2,723	7
	4	地域活動指導員設置事業	地域、家庭の教育力向上のため社会活動や児童の学習活動等の支援員を設置			7,751	7,746	7,753	4
	5	子ども会育成連合会補助事業	インリーダー研修や子どもまつり、カルタ大会等のイベント開催や組織づくりを実施			3,005	2,985	3,005	2
	6	PTA連合会補助事業	児童生徒の健全な成長とPTA会員の資質向上、行橋市の教育の振興を図る			2,200	2,200	1,950	5
	7	青少年育成市民会議補助事業	青少年の自己の確立を目指すよう地域ぐるみで次代を担う青少年の健全な育成を図る			6,831	6,830	6,830	1
	8								
	9								
	10								
	11								
12									
13									

⑥ 施策全体の今後の方針と展望 (主要部長の意見)	<p>少子・高齢社会が急速に進んでいるが、育児や子育てが安心してできる社会環境の整備や将来への安心感を醸成できれば、少子社会は抑制できる。</p> <p>同時に青少年の担う役割は大きく、子ども会活動や少年の船派遣事業、ボランティア活動等を通じて地域とのつながりを深め、社会貢献の意識が高まれば、安心安全な社会形成につながる。</p>
---------------------------------	--

⑦ 総合計画審議会からの意見及び指摘事項等	<p>青少年期は、幼い児童期と比べて自我が芽生えてくる時期であり、他人と自分を比べたり、本心とは反対の行動をとってみたりと、非常に不安定な精神状態となり、少しのきっかけで道を踏み外したり自分の殻に閉じこもったりする危険性のある時期である。そのような時期の子どもに対し、行政が他人と交流する場を設けたり、学ぶ意欲を引き出す取組みを実施することは、青少年期の子どもひとりひとりにとって非常に重要な取組みであると思う。取組みによっては、効果が減少しているものも見受けられるが、更に工夫を行い、全ての目標を達成できるように取り組んでいただきたい。具体的には、団塊の世代(60代~70代)のボランティア団体等を活用した有効な取組みが実現できないだろうか。</p>
--------------------------	--

⑧ 施策の最終方針 (市長の意見)	<p>青少年期を充実させるためには、子ども会や青少年育成団体等への保護者の積極的な参加に向けた意識啓発を促進していくことが重要であります。それらに向けた取組みを実施していくためには子育て世代の保護者に関する知識の提供等が必要になるため、子育てに関する情報提供や相談、保護者同士の交流などを行ってまいります。</p> <p>また、子ども講座やアンビシャス広場等の体験学習型事業の企画・運営と併せ、積極的な公民館施設等の開放を行ってまいります。ボランティア事業に関しては現在、習字・はがき絵・折り紙ボランティアの派遣事業を小学校で実施し、それらの指導を通じて世代間交流を深めています。今後は人材バンク事業を設立し更に幅広い分野での世代間交流事業の展開を実施してまいります。</p>
-------------------------	--